

いばらきネットモニター 茨城県民の防災・減災に関する意識調査

1. 調査の概要

(1) 調査形態

調査時期：平成30年7月18日（水）から7月30日（月）まで

調査方法：インターネット（アンケート専用フォームへの入力）による回答

いばらきネットモニター数：330名（県内モニターのみ）

回収率：50.9%（回収数168名）

回答者の属性（百分率以下は小数点以下第二位を四捨五入しているため、個々の比率の合計は100%にならない場合がある）

		人数（人）	比率（%）
全体		168	100.0
性別	男性	94	56.0
	女性	74	44.0
地域	県北	20	11.9
	県央	61	36.3
	鹿行	13	7.7
	県南	57	33.9
	県西	17	10.1
年齢	10歳代	0	0.0
	20歳代	5	3.0
	30歳代	28	16.7
	40歳代	37	22.0
	50歳代	36	21.4
	60歳代	29	17.3
	70歳以上	33	19.6
職業	自営業	8	4.8
	会社員	54	32.1
	団体職員	5	3.0
	公務員	3	1.8
	主婦・主夫	42	25.0
	学生	2	1.2
	無職	40	23.8
	その他	14	8.3

(2) 調査目的

今後の県の防災対策の検討資料とするため、防災・減災に関する意識調査を行うためのものです。

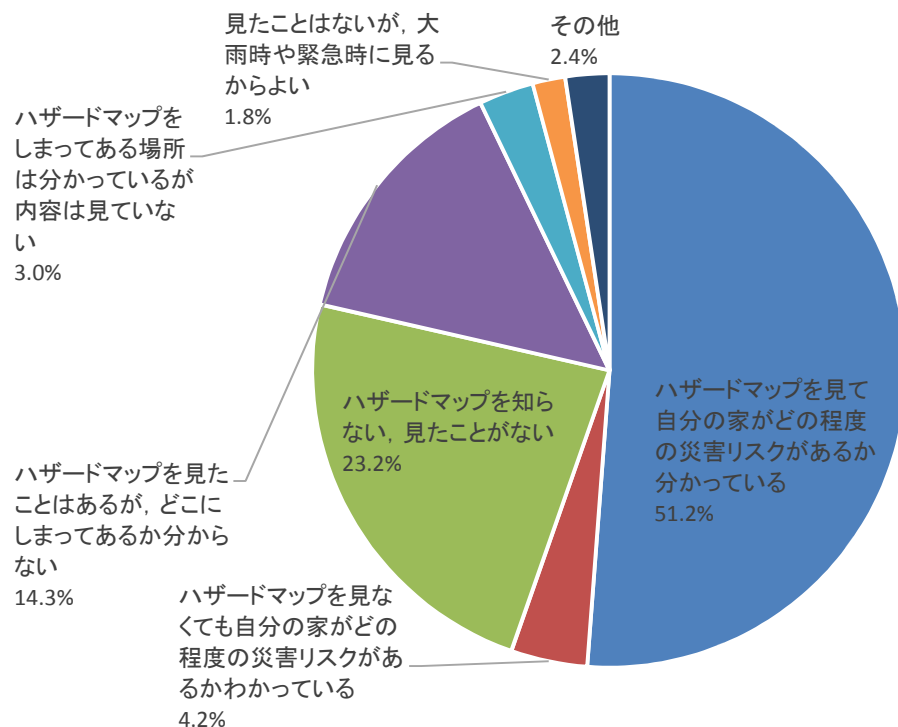
担当課 茨城県防災・危機管理部防災・危機管理課 防災担当

電話：029-301-2885

E-mail：bousai@pref.ibaraki.lg.jp

2. 調査の結果

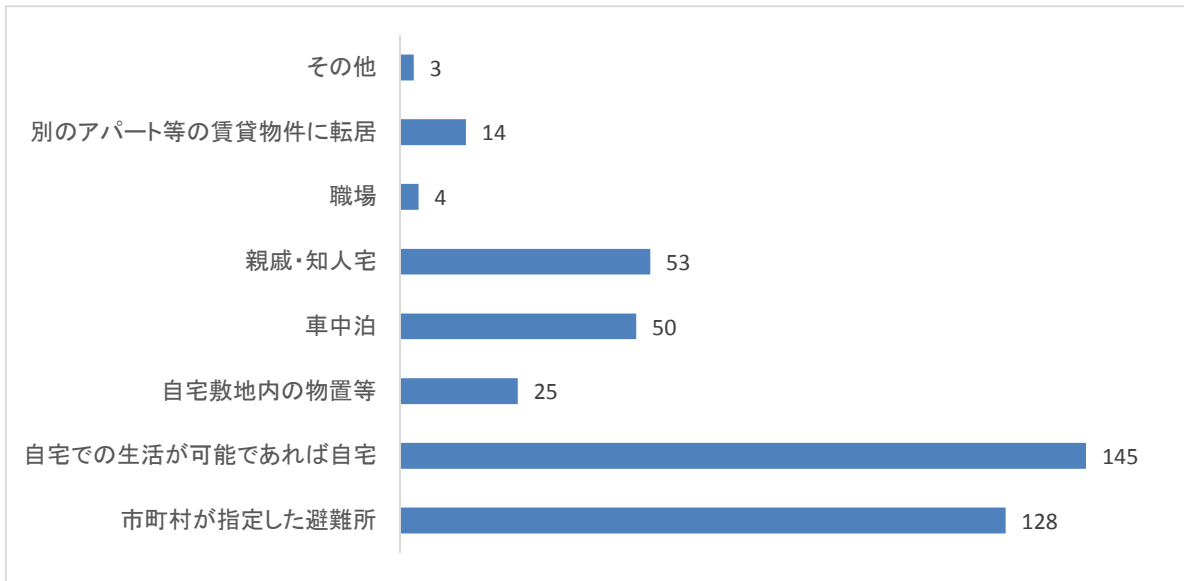
【問1】あなたは、ハザードマップ（揺れやすさマップ，液状化マップ，洪水ハザードマップ，津波ハザードマップ等）を見たことがありますか。



◆ 「ハザードマップを見て自分の家がどの程度の災害リスクがあるか分かっている」が最も多く，半数以上を占めた。

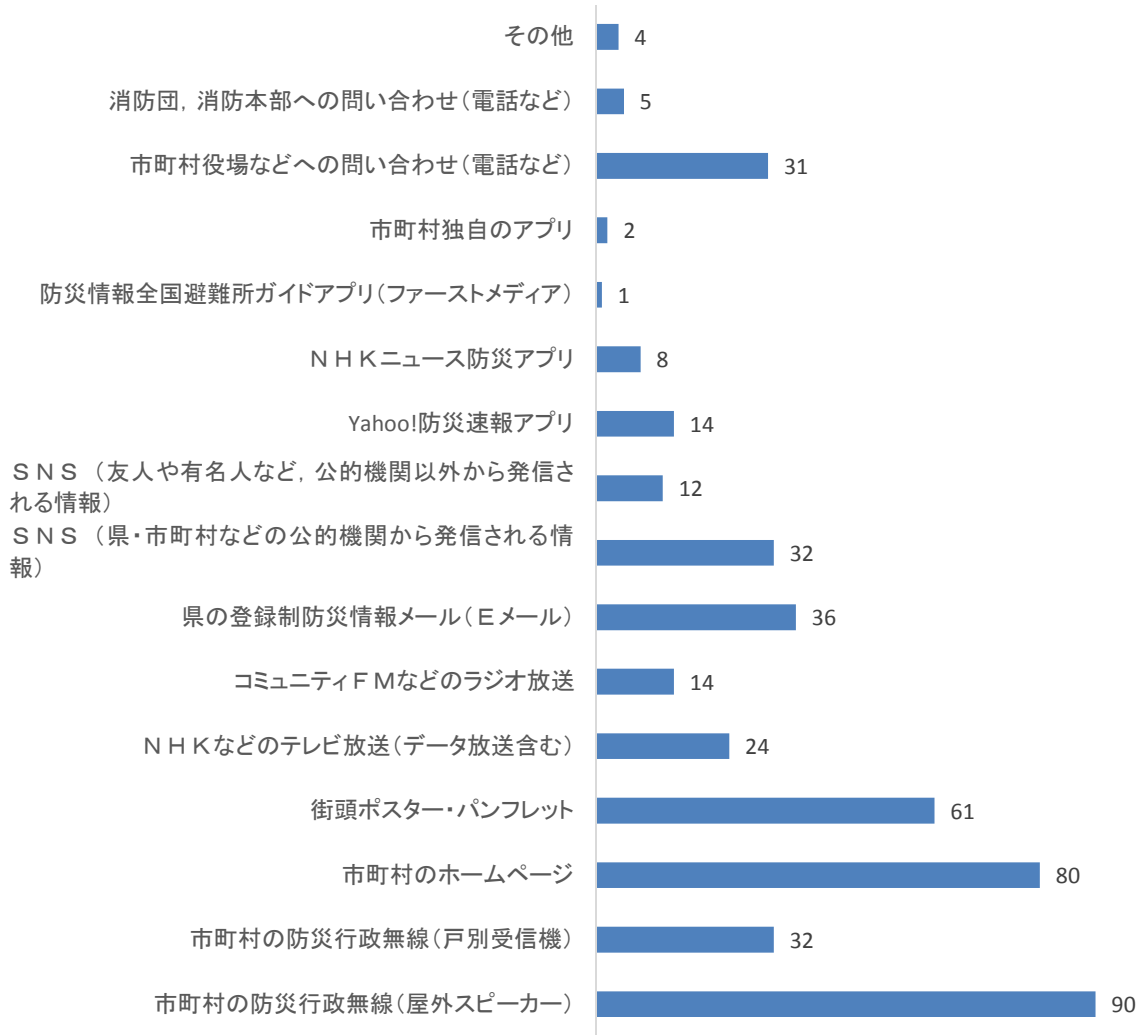
一方で，「ハザードマップを知らない，見たことがない」，「ハザードマップをしまっている場所は分かっているが内容は見ていない」との回答も，合わせて4分の1以上を占める結果となった。

【問2】災害発生後に、自宅が損壊した場合やライフラインが使えない場合、あなたはどこで避難生活をしますか。次の中から、あてはまるものを選んでください。（最大3つまで）



- ◆ 422 件の回答のうち、「自宅での生活が可能であれば自宅」との回答が 145 件と最多であった。「市町村が指定した避難所」との回答は、その次に多い 128 件であった。「その他」として、「被害程度（避難期間）によって全く変わる」、「自宅損傷の原因となった災害種別により対応は異なる」との回答があった。

【問3】災害が発生したときの避難所の開設状況などの情報は、どのような手段で把握しようと考えていますか。次の中から、あてはまるものを選んでください。(最大3つまで)



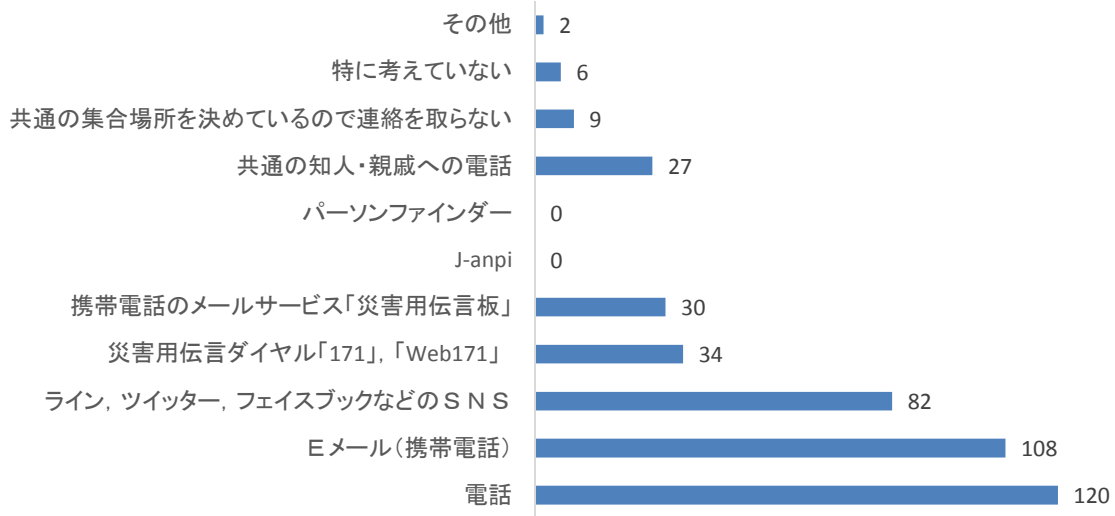
- ◆ 446 件の回答の中で、「市町村の防災行政無線」との回答が最多であった。次いで「市町村のホームページ」、「街頭ポスター、パンフレット」、「SNS（県・市町村などの公的機関から発信される情報）」が続く結果となった。

【問4】(問3で、「ツイッターなどのSNS（友人や有名人など、公的機関以外から発信される情報）」と回答した方にのみ伺います。) 利用するSNSについて次の中から、あてはまるものをすべて選んでください。

回答者数	ツイッター	ライン	フェイスブック	インスタグラム	その他
29	7	10	8	4	0

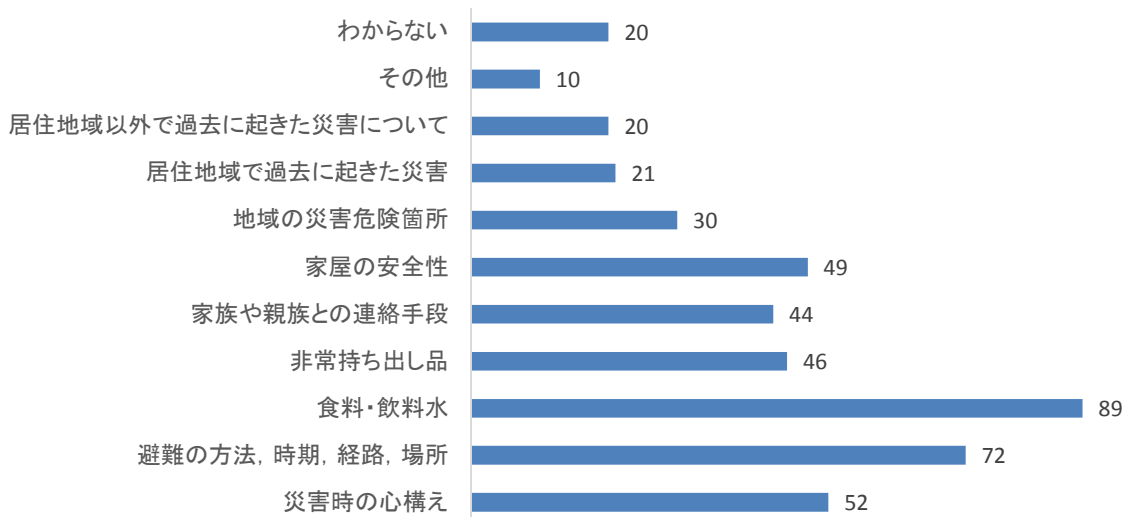
- ◆ 災害が発生したときの避難所の開設状況などの情報を公的機関以外から発信されるSNSで把握しようとする場合の利用手段として最も多い回答は「ライン」であった。

【問5】 家族が離ればなれでいるときに、災害が発生した場合、家族の安否を確認する手段として何を使いますか。次の中から、あてはまるものを選んでください。（最大3つまで）



◆ 418 件の回答の中で、「電話」, 「Eメール（携帯電話）」に次いで、「ライン, ツイッター, フェイスブックなどのSNS」との回答が多数であった。

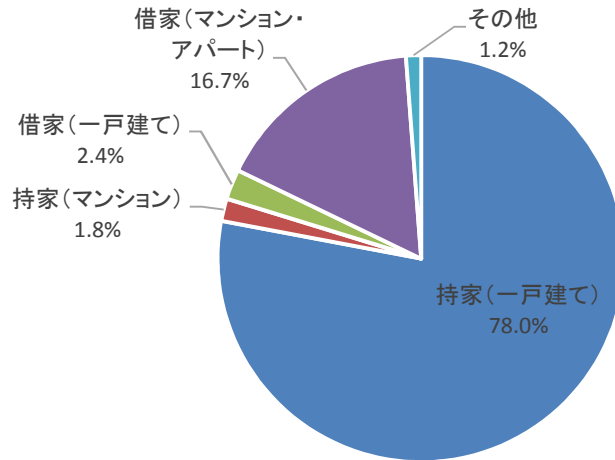
【問6】 ここ1～2年ぐらいの間に、家族や身近な人と、災害が起きたらどうするかなどについて、話し合ったことがありますか。話し合ったことがあるものを次の中から、すべて選んでください。



◆ 453 件の回答の中で、「食料・飲料水」, 次いで「避難の方法, 時期, 経路, 場所」が多数であった。

「その他」10 件のうち9 件は、話し合ったことはないとの回答であった。

【問7】あなたのお住まいの住宅は、次のどれにあたりますか。次の中から、あてはまるものを1つ選んでください。



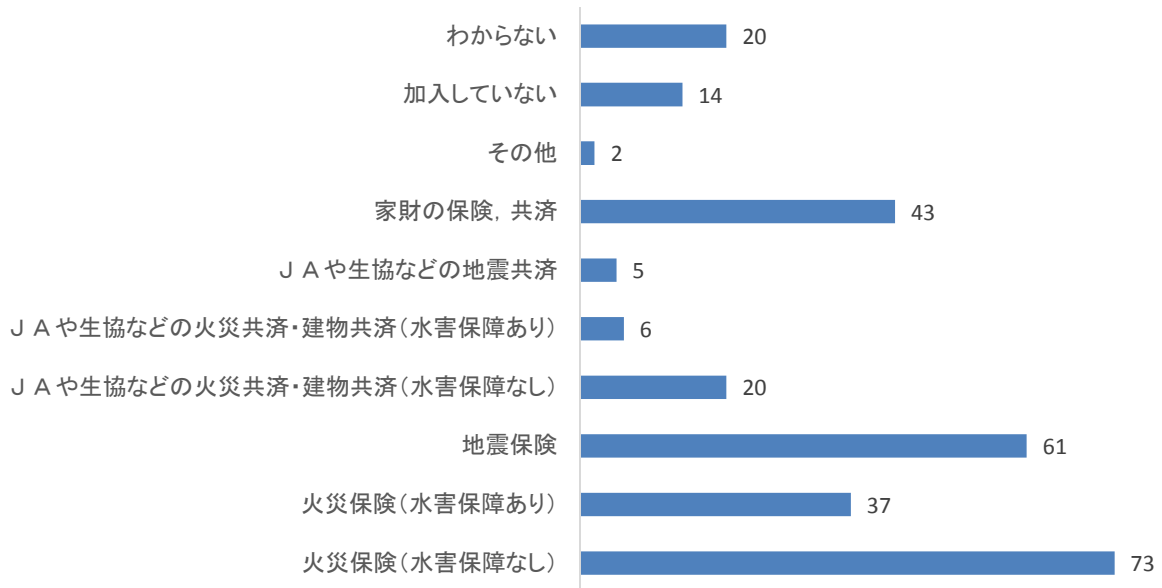
◆ 今回の回答者の住宅のおよそ8割が持家であった。

【問8】(問7で「1 持家(一戸建て)」、「2 持家(マンション)」と回答した方にのみ伺います。)あなたのお住まいの住宅は、耐震性能を満たしていますか。次の中から、あてはまるものを1つ選んでください。

	回答内容	件数	割合
1	昭和56年以降に建築された。	105	78.4%
2	昭和56年以前に建築, 耐震診断の結果, 耐震性を有していた。	4	3.0%
3	昭和56年以前に建築, 耐震診断の結果, 耐震性を有していなかったため, 耐震改修を実施した。	3	2.2%
4	昭和56年以前に建築, 耐震診断の結果, 耐震性を有してなかったが, 耐震改修を実施していない。	1	0.7%
5	昭和56年以前に建築, 耐震診断をしたが, 結果についてはわからない。	0	0.0%
6	昭和56年以前に建築, 耐震診断をしていないが, 今後予定がある。	0	0.0%
7	昭和56年以前に建築, 耐震診断をしていないし, 今後も予定はない。	10	7.5%
8	その他	5	3.7%
9	わからない	6	4.5%
	合計	134	

◆ 今回の回答者の持家である住宅のうち、耐震性能を満たしているもの(1から3までの回答の合計)が83.6%を占めた。一方、「昭和56年以前に建築, 耐震診断をしていないし, 今後も予定はない」との回答も7.5%あった。

【問9】あなたのお住まいの住宅は、どのような建物や家財に関わる保険に加入していますか。
次の中から、あてはまるものをすべて選んでください。

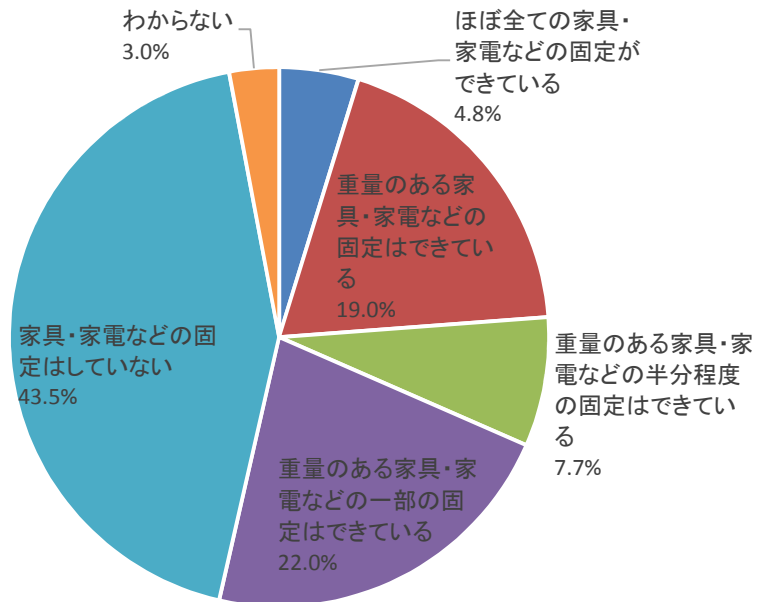


◆ 281 件の回答のうち、何らかの火災保険・共済に加入している内容の回答が 136 件と多数であった。

水害保障ありの保険・共済に加入しているとの回答は、水害保障なしの保険・共済に加入しているとの回答の半数程度であった。

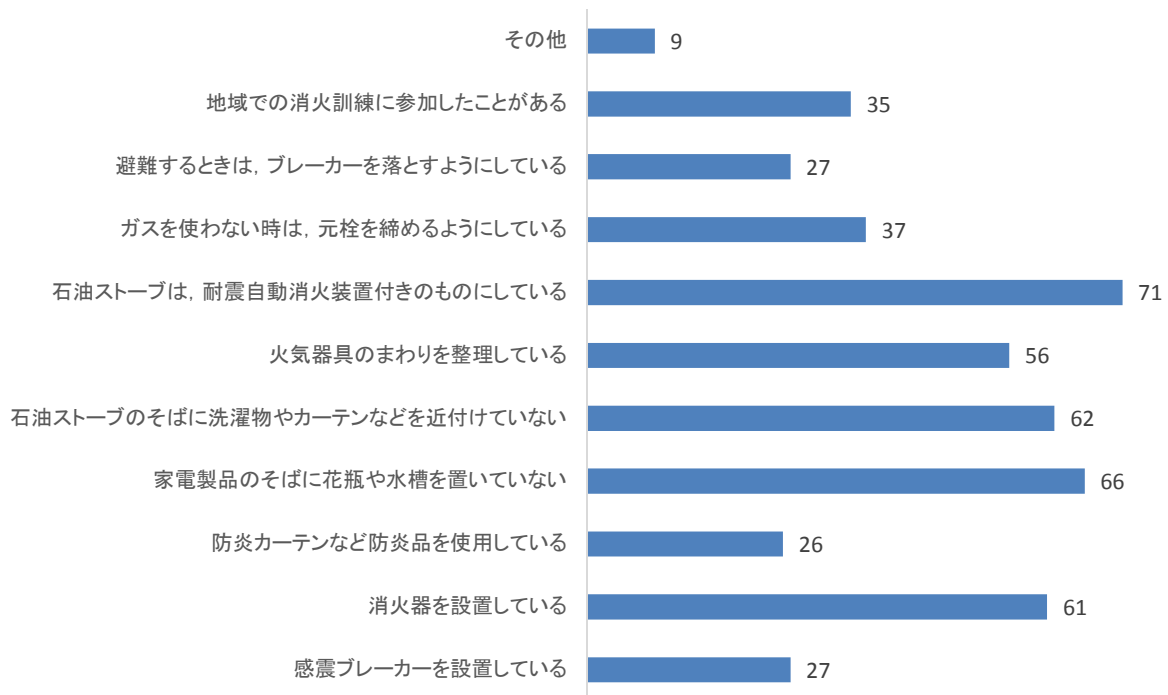
地震保険・共済に加入しているとの回答は合計 66 件であった。

【問 10】 自宅の家具等について、固定化するなどの対策をしていますか。次の中から、あてはまるものを1つ選んでください。



◆ 何らかの形で家具・家電などの固定ができているとの回答が 53.6%, 「家具・家電などの固定はしていない」との回答が 43.5%であった。

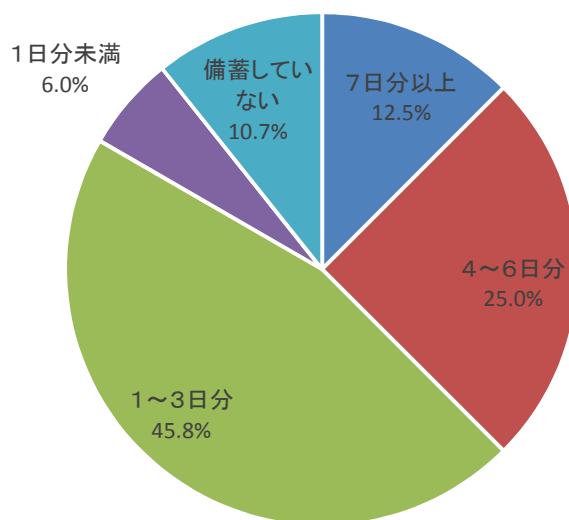
【問 11】 自宅での防火対策をしていますか。次の中から、あてはまるものをすべて選んでください。



◆ 477 件の回答のうち、最も多く回答のあった防火対策は、「石油ストーブは、耐震自動消火装置付きのものにしている」、次いで「石油ストーブのそばに洗濯物やカーテンなどを近づけていない」との回答であり、石油ストーブ関連の防火対策が多数となった。

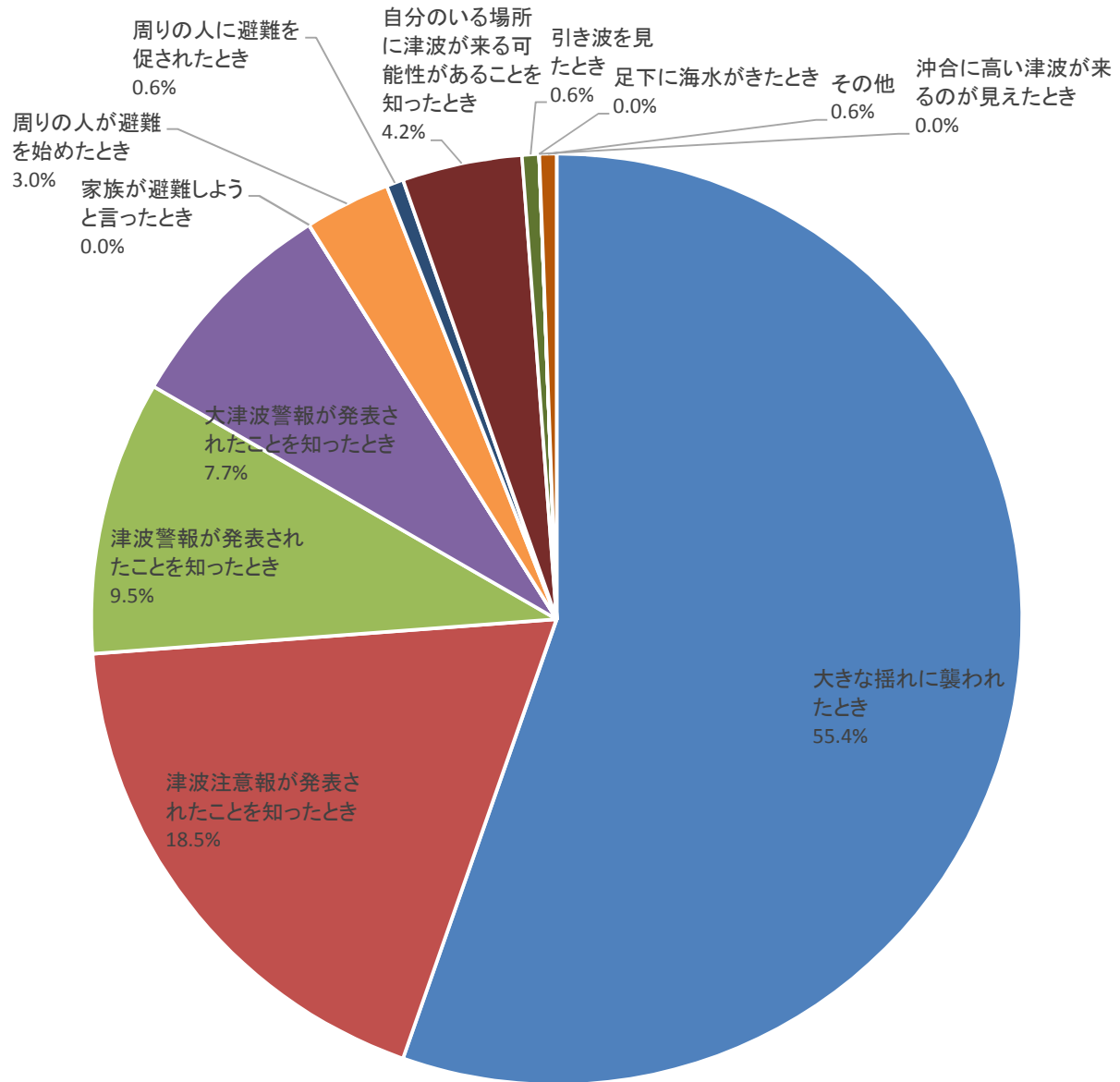
「その他」との回答は、全て、オール電化住宅であることや石油ストーブを使用していないことなどを理由に、防火対策を行っていないとの回答であった。

【問 12】今，災害が発生したと仮定して，あなたのお宅では，家族が利用できる食料や飲料水は何日分ありますか。次の中から，あてはまるものを1つ選んでください。



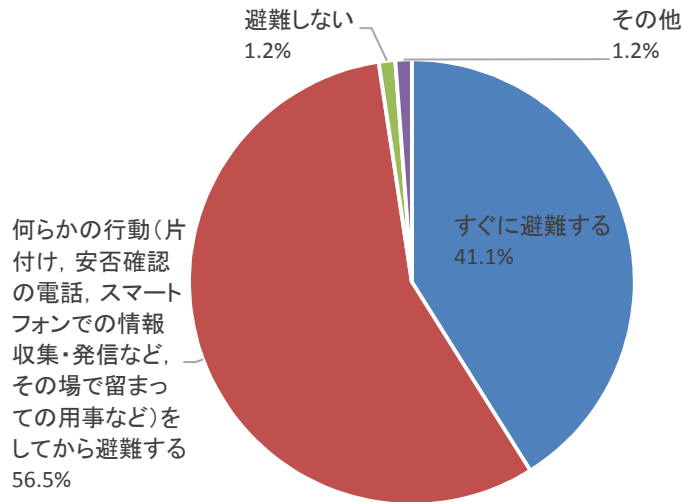
- ◆ 1日分以上の備蓄をしているとの回答が8割以上を占めた。うち「1～3日分」との回答が最多で全体の45.8%であった。
「備蓄していない」との回答はおよそ1割であった。

【問 13】あなたが海岸の近くにいるとき、どの情報に接したときに津波からの避難行動を開始すると思いますか。次の中から、あてはまるものを1つ選んでください。



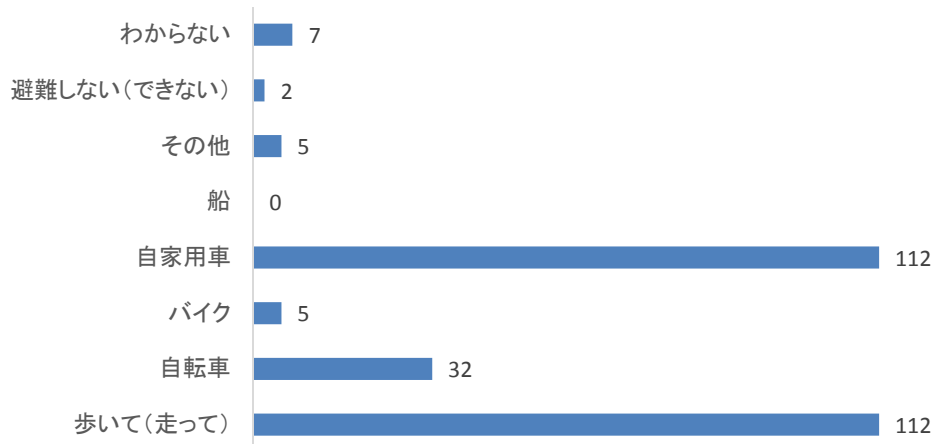
◆ 「大きな揺れに襲われたとき」が最も多く 55.4%を占めた。次いで津波注意報、津波警報、大津波警報が発表されたことを知ったときに避難行動を開始するとの回答がこの順で多く、合わせて 35.7%を占めた。

【問 14】 問 13 で、あなたが避難行動を開始しなければならないと思った後、実際に避難行動を開始するのはいつですか。次の中から、あてはまるものを1つ選んでください。



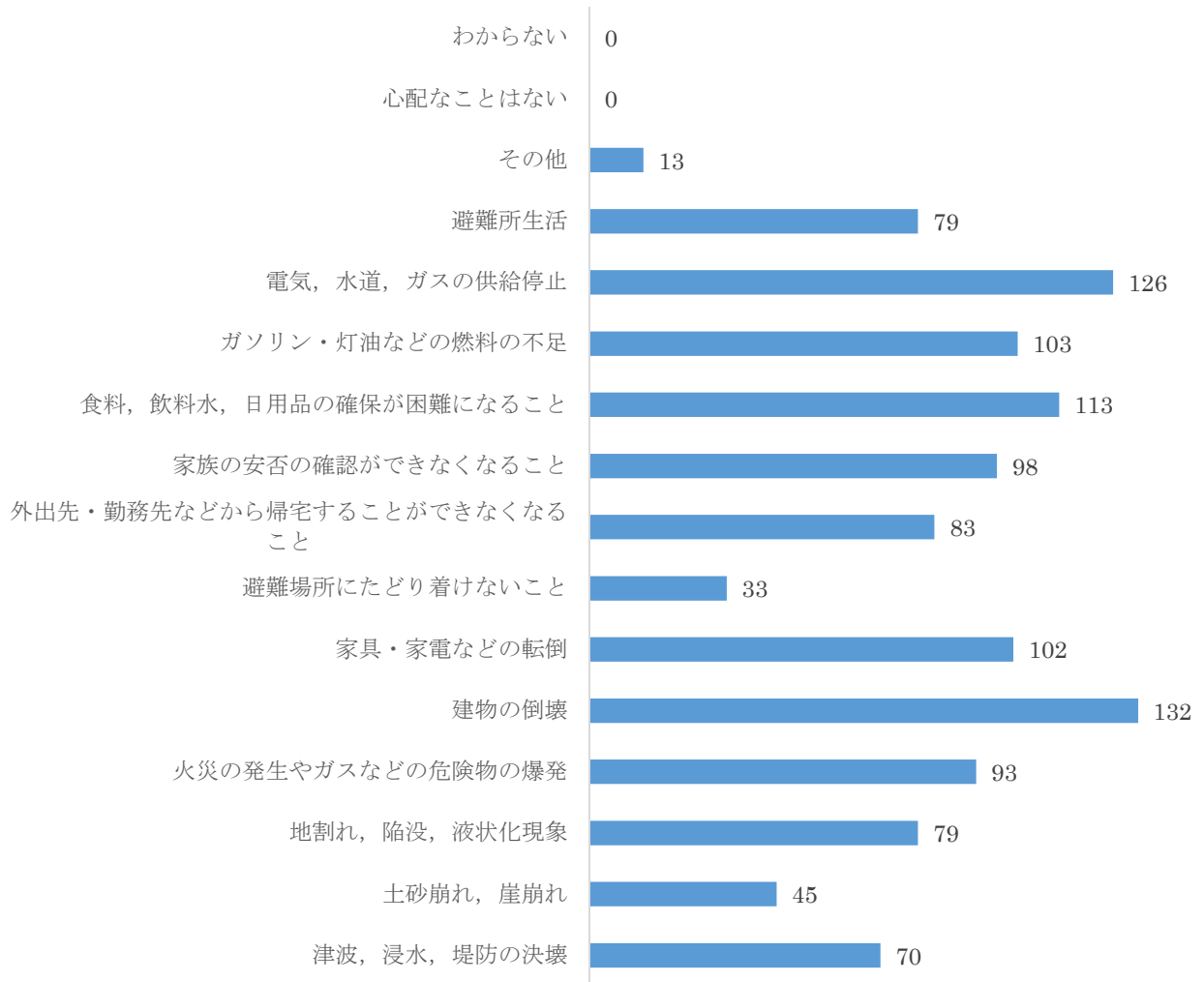
◆ 片付け、情報収集など何らかの行動をしてから避難する内容の回答が半数以上の 56.5%を占め、「すぐに避難する」との回答は 41.1%であった。

【問 15】 あなたが津波からの避難行動を開始する場合、避難手段は何ですか。次の中から、あてはまるものをすべて選んでください。



◆ 275 件の回答のうち、「歩いて (走って)」と「自家用車」がいずれも 112 件と最多であった。

【問 16】大地震が発生したとき、あなたはどのようなことが心配ですか。
次の中から、あてはまるものをすべて選んでください。



◆ 1,169 件の回答のうち、「建物の倒壊」が 132 件と最多、次いで「電気、水道、ガスの供給停止」が 126 件、「食料、飲料水、日用品の確保が困難になること」が 113 件と多かった。「心配なことはない」は 0 件であった。